

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-300281

(43)公開日 平成6年(1994)10月28日

(51)Int.Cl.⁵

F 2 4 C 15/08
7/04

識別記号

庁内整理番号

A 6909-3L
A 7539-3L

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21)出願番号

特願平5-82992

(22)出願日

平成5年(1993)4月9日

(71)出願人

000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)発明者

森井 重裕

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72)発明者

久保 義信

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72)発明者

木本 憲志

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(74)代理人

弁理士 小鍛冶 明 (外2名)

(54)【発明の名称】 オープントースター

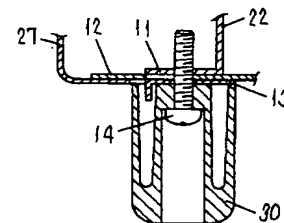
(57)【要約】

【目的】 運ぶ際や清掃の際に指がかかり、怪我をする問題を解決し、外観の見栄えの優れた、安全性の高いオープントースターを提供する。

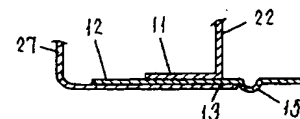
【構成】 内筐体22の側面を覆う側板の下部を底板に取り付け、側板の端部近傍にこの端部に沿って底板に凸リブ15を設け、手がかりを改善する。

11…フラッシュ
12,13…端部
14…ビス
15…凸部
22…内筐体
27…外筐体
30…脚

(a)



(b)



【特許請求の範囲】

【請求項1】 本体内にヒータと焼網を配設した調理車を形成する内筐体を有し、この内筐体の底部を形成する底板を有し、内筐体の側面を覆う側板の下部を底板に取り付けたものにおいて、側板の端部近傍にこの端部に沿って底板に凸リブを設けたことを特徴とするオーブントースター。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、一般家庭で使用するオーブントースターに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来この種のオーブントースターは、例えば実公平3-34563号公報のような構造になっていた。

【0003】 即ち、側板の端部近傍にこの端部に沿って底板に凸リブを設けられていなかった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 ところでこの様な構成では、オーブントースターを運ぶ際に底部に手をかけたり、清掃の際に指がかかり、怪我をする問題があった。

【0005】 昨今、お客様満足の重要性が叫ばれ、怪我をしないまでもエッジで痛みを感じたり、外観で不安を感じたりすることも、従前には小さな問題としてかたづけられて来たものが重要な課題となっている。

【0006】 そこで、本発明は上記従来の問題点を解消するもので、外観の見栄えの優れた、安全性の高いオーブントースターを提供することを目的とするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】 そして上記の目的を達成するために、本発明は、本体内にヒータと焼網を配設した調理車を形成する内筐体を有し、この内筐体の底部を形成する底板を有し、内筐体の側面を覆う側板の下部を底板に取り付け、側板の端部近傍にこの端部に沿って底板に凸リブを設けたものである。

【0008】

【作用】 上記構成によれば、側板の端部に沿って底板に凸リブを設けているため、運ぶ際や清掃の際において、手や指がかかり怪我をする心配がない。

【0009】

【実施例】 以下、本発明の一実施例について、図面を参照しながら説明する。

【0010】 図2から図3において、21は調理車、22は調理車を形成する内筐体、23は内筐体22の上部側壁に懸架された上ヒータであり、24は内筐体22の下部に懸架された下ヒータである。

【0011】 25は上ヒータ23と下ヒータ24間に前後にスライド自在に内筐体22に設けた焼網であり、26は内筐体22の前側開口部の開閉をする扉体であり、

扉体26の開閉に連動して焼網25は前後にスライドする。

【0012】 両側面及び天面を覆う外筐体27は、下端四隅部で前底板28及び後底板29に脚30と共に締め付けられている。

【0013】 さらに、図1を参照して説明を加えると、内筐体22の側壁の下端部には、外向きに折り曲げられたフランジ11が形成されており、また、前底板28・後底板29及び外筐体27には、フランジ11の下面に衝合されるフランジ状の端部12及び13が形成されている。

【0014】 この場合、図に示すように、内筐体22のフランジ11と前底板28・後底板29の端部12は互いに重ね合わされ、外筐体27の下端四隅部の端部13で脚30の取り付けを兼ねて、ビス14で締め付けられている。

【0015】 外筐体27の下端四隅部の端部13は、脚30の周囲に沿った形状となっており、脚30によって端部13は押さえられている。

【0016】 それ以外の端部13は、前底板28又は後底板29の凸部15の近傍に位置するようになっている。

【0017】 上記構成によれば、外筐体27の端部13は、下端四隅部で脚30により押さえられ、それ以外の端部13は前底板28又は後底板29の凸部15の近傍にあるため、外筐体27の端部13のエッジが、脚30で隠れ、底板の凸部15で守られるため、オーブントースターを運ぶ際に底部に手をかけたり、清掃の際に指がかかり、怪我をする問題はなくなる。

【0018】 このように本発明の実施例のオーブントースターの底部の構成によれば、安価な方法で、外筐体27の端部13のエッジから使用者の手や指を守ることが出来る。

【0019】

【発明の効果】 以上の実施例から明らかなように本発明によれば、外筐体の端部のエッジから使用者の手や指を守ることができ、外観の見栄えの優れた、安全性の高いオーブントースターを提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 (a)は本発明の一実施例における底部の脚部断面図

(b)は同脚部以外の断面図

【図2】 本発明の一実施例におけるオーブントースターの一部欠損正面図

【図3】 オーブントースターの底面図

【符号の説明】

11 フランジ

12 端部

13 端部

15 凸部

3

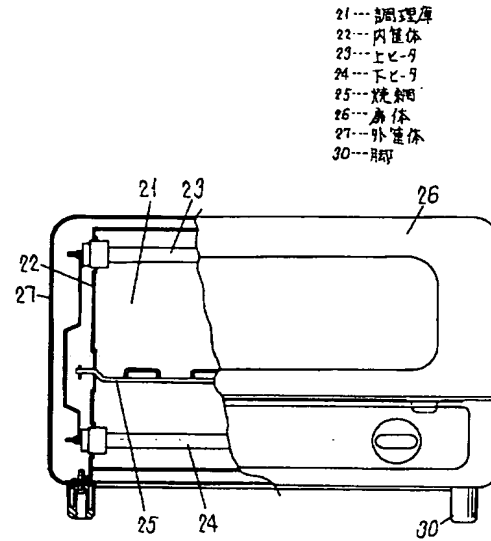
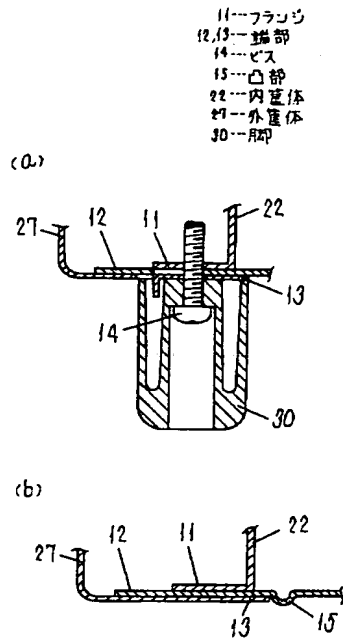
4

22 内筐体
27 外筐体

30 脚

【図1】

【図2】



【図3】

